



# 令和3年度第2回保健医療計画推進会議 脳卒中医療連携検討部会兼 心血管疾患医療連携検討部会の議論と対応案

神奈川県健康医療局保健医療部医療課

令和3年12月3日

# 1 前回の取りまとめ事項

## 論点 1 県循環器病対策推進計画における評価指標及び施策に関する調査結果を踏まえた、評価指標の紐づけについて

- 合意したこと
  - ・ 本計画の策定においては、RH-PLANETのロジックモデルを用いる
  - ・ ロジックモデルは脳卒中と心血管疾患で別々のものを用いる（脳卒中と心血管疾患を1つにまとめない）

## 論点 2 評価指標に表れない施策の検討について

- 合意したこと
  - ・ 評価指標に表れない施策についても、委員意見を踏まえ、計画に記載する

### ① 計画全般に関すること

- ・ 計画の最初に、神奈川県民が長く生き生きと自分らしく暮らせるなど親しみやすいスローガンを入れてほしい（川勝委員）



#### <対応案>

- 資料4、全体目標に「すべての県民が健やかに安心してらせる社会の実現を目指します」を記載。

### ② 循環器病の緩和ケアについて

- 現在国で検討中のため、今回ロジックモデルには加えずアウトプットのみ記載する（計画の中で言及する）だけでよいのではないかと（長谷川委員、濱委員）
- アウトプットは、心不全学会などで開催が始まった緩和ケアに係る研修会受講者数はどうか（濱委員）



#### <対応案>

- 資料2-2の個別施策アウトプットに「神奈川県内の心不全緩和ケアトレーニングコース（HEPT）受講者数」を追加。資料4「循環器病の緩和ケア」でもHEPTについて記載。

### ③小児期、若年期から配慮が必要な循環器病への対策について

- 今回ロジックモデルには加えずアウトプットのみ記載（計画の中で言及する）だけでよいのではないか（長谷川委員）



#### <対応案>

- 資料4「小児期・若年期から配慮が必要な循環器病への対策」を記載。なお、先天性心疾患を診ることのできる医療機関数等をアウトカムに追加してはどうかとのご意見もあったが、現時点で数字を把握できないため今後の課題とする。

### ④普及啓発・予防について

- 県民向けの啓発をぜひやってほしい。（長谷川委員）
- 県民へのわかりやすい、理解しやすい広報、啓発について具体的に何をすべきかを検討する場を設け検討し推進してほしい（川勝委員）



#### <対応案>

- 効果的な広報、啓発について、次期計画に向けた検討事項とする。

### ⑤医療提供体制・連携体制について

- 治療内容や状況が救急隊にリアルタイムでわかるように、コロナ対応を応用してやっていくとよい（伊苅委員）



#### <対応案>

- 脳・心疾患それぞれの病院の連携体制について、次期計画に向けた検討事項とする。

### ⑥医療提供体制・連携体制について

- 地域で共通のパスを作っていく、地域で同一の価値観を進めていくことは大事な方向性（伊荊委員）
- 患者をどのように在宅につなぐかは大きな課題（福井委員）
- 訪問診療できる循環器の地域の医師が不足しているので循環器の再発予防という点で、取組があるとよい（青地委員）
- 地域療養の神奈川モデルを応用する方法もあるのでは（濱委員）



#### <対応案>

- 地域のかかりつけ医等と専門医の連携体制について、次期計画に向けて検討事項とする。



### ⑦医療提供体制・連携体制について

- オーラルフレイルに関連した指標が今回のロジックモデルでは入っていないが、今後継続的に把握可能な指標が設定できるようになったら、計画に加えていただきたい。（大持委員）



#### <対応案>

- オーラルフレイルに関連した指標について、次期計画に向けて検討事項とする。

### ⑧救急との連携

- 救急隊はそれぞれの地区に応じて工夫しているが、横の連携があまりないので、県が主導になって横浜市、川崎市、相模原市の3政令指定都市と市町村が連携できると、神奈川県全体の救急のレベルが上がる（福井委員）
- 横浜の救急が心電図を取り、専門医にデータ転送する仕組みなどの情報について、神奈川県が各自治体に流していただきたい（土田委員）



#### <対応案>

- 神奈川県メディカルコントロール協議会での情報共有について検討する。

### ⑨データベースについて

- 健康寿命をロジックモデルにどうやって落とし込むかというのは現実的に難しいと理解しているが、データベースの整備などそのための努力は必要と考える。（福井委員）



#### <対応案>

- 次期計画に向けて検討事項とする。